

南無阿弥陀仏は  
私のいのち



平成 25 年  
2 月号

NO.  
421

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobitiro.jp/>  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



学生運動が盛んな時代に、地方から東京の大学へ進学し、様々な出来事に出遭っていく主人公を描いた小説を読んだ。

この小説は、私が生まれる十数年前の出来事について描かれているのだが、読みますむうち、主人公に共感を抱くようになった。学生運動について詳しくは知らないが、主人公は勉学の為に上京したにもかかわらず、周りの環境に飲み込まれ、全く興味の無かった学生運動に参加していったのである。生きている時代は異なるが、同じようにして周りの環境や流行のようなものに流され、気づいてみれば「私」というものが変化してしまっていた。

## 漂 流 者

様々な関係を持つ環境の中で、「自分を守りたい」ということが無意識にある。その思いは、仲間外れにされたくない、時代遅れと思われたくない等、そのような思いとして表れていると感じる。その思いに動かされるようにして、環境や流行についていくことで一杯だ。まさかそんな形で押し流されているとは思ってもいない。

私たちは、自分の思いや考えを頼りにして生きているが、実際には、人間関係・経済・流行等の様々な環境に飲み込まれ、自分の思い通りにならない者として存在している。そのような存在であることを誤魔化していけば、悩みや苦しみだけに染まった人生で終わってしまうのではないか。そのような苦悩の中に、本当に生きる意義を見出して欲しいと願われていることを、小説を通して教えられた。

# 見えない力

かねこ みのる  
台東区在住 金子 實 さん



今回は台東区千束で五〇年以上「金寿司」を営まれ、六年前にお店をたたまれた金子實さんにお話を伺います。

## ◆寿司屋になるまで

元々、親父がこの地で魚屋をやっていたんだけど、魚屋はやらないと小さい時から言っていたんだよ。冬は手が冷たいし……。

ふと小学生の時、扇風機が回るのが不思議に思ってた。スイッチの隙間をのぞき込んだ。そしたら青い光が見えて、それに触ったらビリッときたんだよ。それが電気だと分かったら、今度はなんで電気が発生するのか気になる。そこから発電所やらなんやらということが分かってきた。それ以来、「なんで」の連続で、高校・大学と電気の方へ進んだんだ。

## ◆寿司屋になる

両親は高校、大学と電気系に進むことは全く反対しなかった。むしろ、学校には無関心だった。でも、卒業後は寿司屋の奉公に出て外の飯を食べ、よという約束だった。それでも会社勤めしたくて東京通信工業（現SONY）の内定をもらったんだけど許してもらえなかった。だから同級生なんか「電気寿司」なんていわれたよ。

## ◆お寺との縁

自分は、見えるものしか信用出来

なかつたんだよ。電気に興味が湧いたのも、はつきりさせたいと思つたから。でも、西徳寺が目の前で、関わるようになって、「見えないものがあるんだ」ということが何となく分かってきた。それまでは「自分のことは自分で決める」というような、自力しかないと思つてた。だけど「他力」という言葉を教わつたんだ。

小学校三年の時、福島への疎開を機に俳句を始めた。初めて作つたのが疎開して半年たって田舎の子。人生とはそういうものかもしれない。

## ◆商売について

子供に上等な寿司を食べさせて本人が安い寿司を注文するお客に、「自分で給料取ってから食べるもんだ」といつて怒らせたこともある。言っちゃいけないのは分かってるんだけど、我慢できない性分で言ってしまうんだ。八方美人な商売ではなかつたなあ。だけど開店前から来るような常連さんもいたよ。そんな感じでやつてこられた。

当然だけど、商売はお客さんに教えてもらった。また本当に時代がよかった。でも、正直今この地で続けていくのは難しい。だから息子には初めから継げとは言わなかったし、自分の好きな方へ進めといつたよ。

（聞き手 山崎 哲）

## 「なん？」 15 「袈裟」

袈裟とは仏教の僧侶が身につける衣類のことです。梵語で「混濁色」を意味するカシャーヤを音訳したもので、その色から糞掃衣、仏教儀式に用いることから法衣ともいいます。もとは、インドの仏教僧侶が身にまとっていた布で、出家僧侶は財産になるような私有物を持つことを禁じられていたため、捨てられたほろ布、汚物を拭く（糞掃）くらいしか用の無くなった端布を拾い集め綴り合せて身を覆う布を作ったことによりです。

衣は、作業着、普段着、儀式・訪問着の三枚があり、これに食事や托鉢に使う金属性のボールをあわせて三衣一鉢と呼び、私有が許されていません。

仏教がより寒冷な地方に伝播するにつれて下衣が着られるようになり、袈裟と衣が分離しました。

中国に伝わる頃には本来の用途を失って僧侶であることを表す裝飾的な衣装となり、日本では、さらに様々な色や金襴の布地が用いられるようになり、その組み合わせによって僧侶の位階や特権を表すものになりました。

なお袈裟は、小さな布を縦に繋いだものを条と呼び、これを横に何条か縫い合わせて作られます。条の数によって、五条袈裟、七条袈裟と呼びます。

（岸本 秀一 記）

前回の「五濁悪時の群生海、如来如実の言を信すべし」をうけて「よく一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断ぜずして涅槃を得」といわれます。

ここにいう「一念喜愛の心」は、自分の思いを念じ続けて一念がかない、シメタというようなひとりよがりの喜びでもなければ、一念を実行して煩惱をコントロールし、ヤツタというような傲慢の喜びでもありません。そうした一念の喜びへの誤解が、「如来如実の言」に出遇って、根底からくつがえされた喜びが「一念喜愛の心」です。「一念喜愛の心」は、自分の思いにピリオドをうって、今ここにある事実生きよという教え・本願にふれた心です。それで、親鸞聖人は、「一念喜愛心は、一念慶喜の真実信心よくひらけ、かならず本願の実報土にうまるとしるべし。」「尊号真像銘文」といわれます。つまり、「一念喜愛の心」は、「よくひらけ」てくる信心、聞法をご縁にして南無阿弥陀仏する私に発つてくる心であって、私が発す心ではありません。一念は、発るはずのない私に発った心であるからこそ、喜びの心になるのです。

それで、一念喜愛の心が発れば、「煩惱を断ぜずして涅槃を得」といわ

れます。煩惱とは、「煩は、身をわすらわす。悩は、こころをなやます。」「唯信鈔文意」心のはたらきです。煩惱の代表は、貪欲(都合のよいものは欲し)、瞋恚(都合の悪いものは憎



松井憲一 能発一念喜愛心 不断煩惱得涅槃 (よく一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断ぜずして涅槃を得。)

のいつたことに自分がしぼられて、苦しみを増幅しているのが、私の生活です。

それに対して、涅槃とは、迷いのもとである煩惱がすべて寂滅した静かなさとの世界です。だから、煩惱を断ぜずして涅槃を得るといのは、全く矛盾している事柄でありま

す。にもかかわらず、あえてここに煩惱を断ぜずして涅槃を得るといわれるのは、煩惱に対する自覚の深さにあります。聖人は、お手紙の中で、「煩惱具足の身」「凡夫はもとより煩惱具足したるゆえに、わるきものとおもうべし」と、いわれたくないことを当然のようにいわれますが、これが赤裸々な私の姿でありましよう。

以前、念仏者浅原才市さんの家とご縁のあるお寺を訪ねたことがあり

ます。そこには、才市さんが、肩衣をかけて正座し合掌している姿の軸が掛けてありました。ところが驚いたことには、その才市さんの肖像画の頭に、二本の角が画いてありました。それは、念仏することが、決して角がなくなることはなくして、角のあることを見いだすこと、それが念仏者の実相であることを、教えておりました。

横川の源信僧都は、「又、妄念はもとより凡夫の地体なり。妄念の外に別の心もなきなり」(『横川法語』)といわれます。すべてを妄念と思ひ知らせるのが、如来の言のはたらきであって、涅槃に至る道であります。煩惱のただ中であって、静かな世界へ帰る道をいただく、それが南無阿弥陀仏の一念です。その頭のあげようのない一念喜愛の心に、すべての依頼心と力み心が解放されます。この一念に、依頼心と力み心が照破されるから、見せかけの幸不幸にしばらくのことなく、与えられた人生を完全燃焼していく生活、本願に生きようとする生活、涅槃に至るべき分にはだまった生活が与えられると喜ばれるのです。

# 山門の言葉

## 善悪の字しりがおは おおそらごとのかたちなり



最近、野菜を食べることが少なくなり、自分の健康を考えてサプリメントを購入した。サプリメントとは栄養補助食品、または健康補助食品である。

しかし自分の生活を振り返り、健康に気を遣う生活をしているかといえば、そうではない。身体に良くない酒を飲み、タバコを吸っている。自分のことながら勝手なものである。

健康ブームである今日、健康が善であり、不健康が悪であるという考えが定着してきたように思う。そのため過度に健康に気を遣い、逆に身体を悪くする人もいるようである。今日は科学が発達し、健康のことだけではなく、何事に関しても善悪がはつきり分別されるようになったが、逆にその分別に振り回されているのではないだろうか。

今月の言葉は『正像末和讃』の言葉である。親鸞聖人は、私たちがあたたかも何が善いことで、何が悪いことであるのかを知っているような顔

をして生きていることは、大嘘つきですがたであると言っているのである。

私たちが生きる上で善悪だけでなく、様々な分別をすることは必要不可欠なことであり、それにより私たちは便利で豊かな生活を手に入れている。

しかし私たちの心というのは、どこまでも都合に基づいた分別を離れない。そして、その都合に合わないことを受け入れることが出来ず、悩み苦しむのである。

実は私たちが嫌々悩み苦しむは、自身の経験から具わる分別の心から出ているのである。自分の考えに縛られている私たちは、自らそのことに目覚めるといったことはない。

この和讃は親鸞聖人が出遇った方々から教えられ、自ら懺悔された言葉である。生活の中で様々な物に動かされ、惑わされる中で、仏の教えを聞き、自身を見つめ直すことが呼びかけられているように感じる。

(仲井 真裕 記)

## おつとめ

仏説無量寿経 ③

世自在王仏の説法に出遇った国王が、国を棄て、王位を捐てて仏道を求める者となった、その名告りが法蔵菩薩」という名で表されています。法蔵とは、あらゆる諸仏の法(教え)を集めて、蔵のように収められたということを意味しています。

阿弥陀仏の因位(仏になる前の位)を法蔵菩薩といいますが、あらゆる人々が救われる道は何かを求めていかれました。因位とは仏になる前の修行をしている位であり、ある意味では迷いの位です。

つまり、法蔵菩薩の修行とはありとあらゆる世界をご覧になり、人間が何に迷っているのかを尋ねていかれた歩みなのです。どのような人も苦悩の人生を越えていける、阿弥陀の智慧を見いだされた諸仏の歴史が、法蔵という言葉に込められているのです。

(木村 専正 記)

# 掲示板

平成25年2月

- 2日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 10日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会 (市川八幡神社)
- 16日(土) 午後1時半 定例間法会
- 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習

- 20日(水) 午後1時 婦人会間法会 本山リーフレットに聞く「定まる方向」
- 21日(木) 午後1時半 教行信証「信巻」に聞く(第85回) 講師 宗正元師
- 23日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 岸本住職
- 24日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会(鶴見公会堂)
- 26日(火) 午後7時 仏教青年会座談会

## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

- 中野区 阿部 典子 様
- 台東区 栗林 信恵 様
- 名古屋市 西村 知津 様
- 板橋区 久保田 宏子 様

## 日誌

- 12月12日 婦人会間法会 本山リーフレットに聞く「無残な生きかた」
- 12月15日 定例間法会 評議員会定例役員会 評議員会臨時役員会
- 12月21日 宗祖忌
- 12月27日・28日 歳暮法要
- 12月31日 修正会
- 1月1日 中興忌
- 1月7日・8日 木村前住職三回忌法要
- 1月10日 混声合唱団「エコー」練習
- 1月12日 婦人会新年会
- 1月13日



## 西徳寺 前住職 三回忌法要

去る平成25年1月10日午前10時より、西徳寺前住職 故木村恭尚師の三回忌法要が勤まりました。本堂には前住職を偲ぶ方々約50名が参詣に訪れました。法事を勤めることを通して、前住職の明るなお人柄が思い起こされます。(大橋 伊知郎 記)

## お墓のはなし

### 「空き墓地」

「墓地永代使用権」とは、契約されれば解約しない限り、代々に渡ってその場所をご使用いただく権利を得ることをいいます。(他者への転売・譲渡はできません)ですから、ご夫婦やご家族、またご親戚で時間をかけ吟味される方が増えております。

ご来寺いただければ、随時空いている墓地をご紹介いたします。永代使用料は二百五十万円からで、場所により異なります。年間管理料については一律一万五千円になります。「霊園にするか西徳寺にするか」、また「そこまで急いではない」という方でも構いませんのでお気軽にお声掛け下さい。

なお、西徳寺の墓地が希望で、ご希望にならな場所がない方は「墓地希望者リスト」にご登録していただくことも出来ます。その場合は、ご希望の場所が空き次第、順番にご連絡いたします。しかし、ご希望の場所がいつ空くかは全く分かりませんのでその点はご了承下さい。

契約者がおられても墓石が建立されていない場所も多々ございます。空き墓地の場所を知りたい方は事務所にてお問い合わせ下さい。

(山崎哲記)

## 西徳寺 鎌倉聞法会 (五ブロック共催)参加募集

平成26年に「出かけていく聞法会」が30周年を迎えるにあたり、更なる展開をはかる試金石として、鎌倉聞法会を開催することとなりました。せっかくの鎌倉なので、鎌倉観光を兼ねた聞法会を計画しました。

聞法会会場は、鎌倉で有名なフレンチレストラン「レグリーズ」です。募集人数は先着40名となります。参加ご希望の方はどうぞお早めにお申し込みください。

期 日 **平成25年4月12日(金)**

会 場 〈レグリーズ鎌倉〉

参加費 5千円(昼食及び懇親会の費用を含む)

集 合 JR鎌倉駅 11時

申込方法 電話にて先着40名

電話 **03-3875-3351** 担当者 大橋

コース 貸切バスにて

鎌倉大仏(車窓) — 光明寺〔昼食・精進料理〕 — 報国寺 — 杉本寺又は旧華頂宮邸 — 鶴岡八幡宮(通過) — 川喜多映画記念館(通過) — レグリーズ鎌倉(着)

聞法会・懇親会 16時から18時まで

## 仏具磨きのお誘い

春の永代経法要をお勤めするにあたって、本堂の荘厳や会館等の仏具磨き、境内の清掃など、ご門徒の皆様にお手伝いいただきたいと思ひます。

例年は秋の報恩講前に行ってきましたが、本山から差向布教のご縁をいただくこともあり、綺麗なお荘厳でお迎えしたいと思ひます。

当日は昼食のご用意も致します。大勢のご参加をお待ちしております。

期 日 **平成25年3月5日(火)** 午前10時から

場 所 西徳寺境内

※参加いただける方は寺務所までご連絡ください。(2月末日まで)  
(TEL 03 - 3875 - 3351)

## 編集後記

『天声人語』で数回にわたって連載された記事に「孤族」という言葉がありました。人間は便利で快適な生活＝幸せにすることだと思ひ暮らしてきましたが、お互いに窮屈なことを脱ぎ捨ててきた釜みによって社会が苛まれてきた、その中に形成された存在だといわれます。

心理学者だった故河合隼雄氏は「自立とは独りで生きることではない。自立している人は、適切な依存ができて、そのことをよく自覚している人」だといわれます。不便で窮屈ではあっても、関わりの中にこそ生きる幸せ(意味)があると教えてくださっています。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

## 春季永代経法要

### 聖徳太子奉讃会・ 本山特派布教のご案内

3月22日、春季永代経法要として聖徳太子奉讃会と本山特派布教をお勤めいたします。

聖徳太子は『十七条憲法』を發布され、人間は「共に是れ凡夫」であり、「相共に賢く愚かなること、鑿の端無きが如」き者という自覚において政治を行い、日々の生活を生き抜いていかれました。そして凡夫の自覚において、人々に「篤く三宝を敬え」と説かれ、凡夫であるがゆえに抱える迷いや悩みの中にある、祈りや願いに絶えず耳を傾け、仏の教えに尋ね続けていかれました。

親鸞聖人は聖徳太子のご恩を大切にされ、観音菩薩の化身と仰ぎ、人生の大きな岐路に立たされたとき、いつも太子の生き様に学び、深い自分自身を見据えていかれました。太子はただ仏教の教理を学び、伝えられたのではなく、仏法の智慧と慈悲のはたらきを聞き取られていかれました。親鸞聖人はそんな太子の存在を「父のごとく、母のごとく」に敬われたのです。

今回ご縁をいただく布教使は一昨年、報恩講においでくださいました永尾道雄師でございます。是非とも大勢のご参詣をいただき、共に一念仏のみ教えを聴聞してまいりたいと思っております。 合掌

日 時 **平成25年3月22日(金)**

午後10時半 聖徳太子奉讃会  
法話(1席)

正午から お齋

午後1時 合唱団「エコー」演奏会

午後1時半 春季永代経法要  
法話(2席)

本山差向布教使 永尾道雄師  
浄光寺住職(滋賀県栗東市)

※準備の都合上、お齋のお申し込みは  
**3月10日までにハガキでお申し込みください。**